

永井運輸株式会社

「自分の担当車両を持つことが夢」



船内 天翔さん
(19歳)

事業内容：バス／タクシー／トラック

職名：乗合バス運転手

令和6年より運転手として活躍



Q1. 運転手を目指したきっかけはありますか？

18歳の時、自動車運転免許を取得し、運転の楽しさを知りました。その後、テレビで19歳がバス運転手を目指すという特集を視聴し、自分も挑戦したいと思ったのが大きなきっかけです。

Q2. 入社に至る経緯を教えてください。

近所を永井運輸の乗合バスが通っていることや、**実際利用したことがあり幼少期からなじみがありました**。自分の生活圏内を走行することもあり、安心して運転業務ができると思い、入社を希望しました。

Q3. 入社について、家族や友人の反応はありましたか？

家族も友人も応援してくれました。特に**家族は弊社の乗合バスとすれ違う際に自分が運転をしていないか探している**そうです。

Q4. 入社前の印象と実際の印象等に違いはありましたか？

入社前より弊社がSNSにて発信しているのを見て、楽しそうな雰囲気職場であると感じていました。**実際も先輩達が明るく、働きやすい環境だと感じています**。偶発的に拘束時間が長くなることもありますが、昔よりは短くなっていると**聞くことが多くその点においても働きやすさを感じます**。

Q5. 入社にあたり、学生時代にしておいた方が良かったことはありますか？

運転免許（2種免許）の**学科試験の勉強**することです。また、公共交通機関であることから、接客についても大変重要な業務となります。自分は運転手を目指した時点でホテルでアルバイトを始めたり、様々な方が来る飲食店でアルバイトをしたりと、**接客スキルの向上を意識**しました。接客業については学生時代に経験を積んで良かったと感じています。

Q6. 運転手になり、嬉しかった経験を教えてください。

乗車されるお客様から「ありがとう」と言われると、励みになりモチベーションになります。テレビの取材も数回受け、色々な方々から「見たよ、頑張ってる！」と声をかけてもらえたことも嬉しかったです。

Q7. 大変だった経験、苦慮した経験はありますか？

弊社にはICカードによる決済システムが導入されていますが、ICカードシステムに慣れていないお客様へチャージ方法を説明することに大変苦慮しました。また、車いす使用者の方に関するサポートについても社内教育にて十分に学んでいたものの、実際に車いす使用者の方が乗車する際は緊張してしまいました。

Q8. 自家用車（普通車）との違いや、心がけていることはありますか？

もともと憧れていたのが当初より怖さはなく、日々、楽しいと感じています。普通車と大きく違う部分は車両の「長さ」であるため、内輪差をイメージして運転することを心がけています。また、座っていないお客様も当然いるので、ブレーキの踏み方を意識しています。

Q9. 御社における魅力的な制度等がありますか？

免許の取得、運行管理・整備管理者資格の取得に関する支援が充実していると感じています。毎朝点呼の際に運行管理者に会うため、そういった業務にも憧れや興味を持ち始めました。

Q10. 1日の勤務の流れを教えてください。

出勤→点呼（アルコール検査、車両点検等）→乗務開始→乗務終了→点呼→業務報告→清掃→退勤 が主な1日の流れです。

Q11. 全国的に運送事業者における運転手不足が深刻となっています。若手運転手から見て、運転手を目指す若年層が少ない原因について率直にどうお考えですか？

拘束時間が長いイメージ、プライベートとの両立が難しいイメージがついてしまっている印象があります。

Q12. 若年層が運送事業の運転手に興味を持つためには、どういったことが必要と考えますか？

SNSで会社の雰囲気や業務内容をアピールすることが重要だと考えています。また、教習所を貸し切り運転の体験会などを開催するのもいいと思います。

Q13. 若年層運転手の採用を求める企業はどういったアピールが必要だと考えますか？

拘束時間が短縮傾向にあることをアピールすることが重要だと思います。自身の業務に日々邁進することと同様に、プライベートを充実させたい若者が多いと感じています。そういったライフスタイルに対し「拘束時間が長いイメージ」がネックとなり、採用の妨げになっているのではないのでしょうか。拘束時間の削減は給料が少なくなることの懸念もあるため、折り合いをつけつつ改善をアピールすることが大切だと感じています。

Q14. 最後に船内さんの目指すキャリアアップと、今後運転手を目指す若年層の方々へメッセージをお願いします。

自分がその時々で興味を持ったことにチャレンジしていきたいです。今は、自分の担当車両を持つことが夢です。バス運転手だからこそ見れる景色があると思います。各種支援制度も整っているので、是非、興味があればチャレンジしてみてください。

永井運輸株式会社

求める人材

「心身ともに健康で、常にお客様のことを考えて行動できる社員」

人事担当者インタビュー

今回、若手運転手のインタビューに併せ、運送事業者側の求める運転手像や自社のアピールポイントについて人事・採用担当者様にインタビューを実施しました。

☆永井運輸株式会社 小又常務・手島課長代理

Q1.今回、若手運転手を採用するに至った経緯を教えてください。

小又常務：免許制度が改定されたことや各種補助制度の充実からドライバー募集に応募されて、採用に至りました。若い人は体力や力もあり将来的な期待も大きいことから、弊社としては引き続き採用に力を入れていきます。

Q2.若手運転手を確保する上で工夫している点、その他の雇用促進に係る取組みがあれば教えてください。

小又常務：自治体を巻き込んだ説明会を実施しています。様々な取組みを実施して、公共交通の維持をしなくてはなりません。そうしなければ人が異業種へ流れてしまう。

手島課長代理：運転手になりたいと言ってくれた熱意を大切にしたいと日々考えています。そういった熱意が消えないよう、企業としてのサポート、努力が必要となります。直近で言えば近年話題となっているカスハラ対策を実行することで、従業員を守っていきたいと考えています。カスハラを処罰する法律の整備についても進めてもらいたいと考えています。車内にドラレコをつけることで、そういったケースにも毅然とした対応ができるように配慮も進めています。また、子育て中の女性（時短勤務(午前中のみ)）の方々の採用にも力を入れています。社内の有休取得率が75%に達していることも強みです。なお、役員及び運行管理者が自らバスの乗務をすることができ、乗務員の突発的な休暇（体調不良等）をカバーできる体制が整っています。そういった状況から気軽に休むことができていると思います。

Q3.運転手に対する手当や会社の福利厚生等を教えてください。

小又常務：正社員に対する手当の充実を図っています。具体的には無事故手当、家族手当、資格手当、精勤手当、住宅手当などがあります。遠方に住んでいる社員も雇えるように寮も完備しています。通勤に時間がかかる場合などに利用することができます。

Q4.運転手の将来的なキャリアアップについて教えてください。

小又常務：各種研修・講習の受講が可能であり、費用も会社にて負担しています。そういった制度を利用し運転手から、運行・整備管理者資格を取得し管理者になった者もいます。また、事務業務への職制変更や路線バス運転手から観光バス運転手へのキャリアアップもすることができます。社員が努力した分は給料に反映しています。

永井運輸株式会社

人事担当者インタビュー

Q5.どのような人材を求めていますか？

小又常務：

心身ともに健康で**常にお客様のことを考えて行動できる人**

Q6.若手運転手を雇用し社内に変化したことはありますか？

小又常務：若手運転手が日々頑張っている姿を見て頑張りたいと思う方が**増えた**と感じています。ネガティブな意見が減り、雰囲気明るくなりました。自身がやっていることの意味を社員が知り「この業務を自身がしているから皆が感謝してくれる。」と感じてほしい。やりがいを常に持ってほしいです。

Q7.事業者から見て運転手を目指す若年層が少ない原因について率直にどうお考えですか

小又常務：メディアで2024年問題が報道され、長時間や低賃金のイメージが浸透してしまったことが大きな問題であると感じています。

手島課長代理：企業説明会で「同年代の方はいますか」と質問されるので、年齢層を気にしている若手も多いと思います。**入社しても同年代の方がない**というのは大きな理由ではないでしょうか。また、**公共交通に係る運転手はお客様を安全に輸送するのが使命**であり、そのプレッシャーは計り知れないものがあります。一つのミスが人命に関わってくることから、待遇面をさらに良くしていかなければならないと日々感じています。実際、そういった**重責**から内定後に家族の反対で辞退される方もいました。

Q8. 御社におけるPRポイントを教えてください。

手島課長代理：様々な自動車運送事業の許可を取得していることです。バス、タクシー、トラックの許可を有しており、**自分の希望する働き方を選べる**。トラック運転手からバス運転手などの職制変更も努力次第でできる。手当の充実を図っている。**自らの生活スタイルに合わせて希望する働き方が選べる**ことがPRポイントです。

Q9. 最後に運転手を目指す方々へのメッセージをお願いします。

手島課長代理：運転手という職種について様々なことが言われていますが、知らずに否定するより知ってから否定をしてほしい。そして弊社としては否定されるポイントを受け止め、しっかりと改善していきます。少しでもバス運転手、自動車運送業界に興味を持っている方がいるのであれば、是非チャレンジしてほしいと思っています。

今回、永井運輸株式会社様のご協力もあり若手運転手のインタビューを実施することができました。永井運輸株式会社様には感謝申し上げます。
バス運転手を目指した時点で、接客スキルを磨くためにアルバイトをしたり、「自分の担当車両を持ちたい」「たくさん資格を取得したい」という熱意が非常に伝わりました。船内さん自身もメディアをきっかけにバス運転手を目指していることから、メディアの影響力の大きさを活かして魅力をアピールすることの重要性を感じました。

運輸支局M

インタビュー
後記